

『世界の子ども権利かるた』で子どもの権利を学ぶ

認定NPO法人国際子ども権利センター

(シーライツ) 代表理事

www.c-rights.org

文京学院大学教員

広げよう！子どもの権利条約キャンペーン共同代表

甲斐田万智子

かるたワークショップの流れ

1. かるたで遊ぶ
2. それぞれ取った絵札のかるたの読み札を渡し、それぞれどんな子どもの権利に関係しているか読んでもらう。
3. グループごとにその読み札の感想を話してもらう。自分が新しく学んだこと、似たような経験（自分でも友達でも）、これが子どもの権利と知って考えたことを話してもらう。
4. 最も印象に残ったかるた、ほかの子どもに伝えたいかるたを選んでポストイットに書いてもらい、その理由を話してもらう。
5. アンケート



SDGs 1 貧困をなくそう



■世界で貧困に苦しむ子どもについて

- 第24条 健康に生きる権利
- 第32条 児童労働から守られる権利

■日本は子どもの貧困の割合がほかの国と比べて高い

- 子どもの権利条約で保障されている権利なので、相談してもいい
- 第26条 子どもの親が厳しい状況に陥ったら国から**社会保障**を受ける権利
- 第27条 どんな子どもも必要なものが**十分に満たされた生活**を送る権利

SDGs 5 ジェンダー平等



- 第2条 差別の禁止
- 女の子はこうすべき、男の子はこうすべきという考え方は子どもの権利侵害
- 日本は主要な国（OECD諸国）の中でジェンダーギャップ指数は最低。つまり、ジェンダー（男女）の格差が大きい。
- その理由は、男女性別役割意識（ジェンダーバイアス）

子どもの権利条約

第2条 差別の禁止 第28条 教育を受ける権利

SDGs 4 質の高い教育をみんなに



- 外国ルーツの子どもたちにも学ぶ権利が等しくある
- にもかかわらず、様々な困難に直面している
- それに対して学校や行政、政府がすべきことがいろいろある。たとえば日本語教育。
- また彼女・彼らが受けている差別（マイクロアグレッション）によってつらい思いをしている。

子どもの権利条約 第34条 性的虐待・性的搾取から守られる権利



- プライベートゾーンとは？
- 嫌な触られ方をしたら、恥ずかしくても親やおとなに相談してみよう。
- それは自分の大切な権利が侵害されたのであり、被害を受けたあなたは悪くない。
- 性のことを学ぶことは大切。

第12条 子どもの意見(view)を表明する権利 つらいときは、SOSの声を上げていい



- つらいときは相談してみよう
- 嫌なときは、ノーと言っていよ
- 一人で悩まないで話してみることが大事
- 学校に行かないことは悪いことではない。多様な学びの権利があることを伝える。

子どもの参加の権利 これまで軽視されてきた権利 しかし、子どもが子どもの時に使える大切なもの SDGs16.7 誰もが意思決定に参加できる



参加の権利

- 第12条 子どもにも意見を言って、それを尊重される権利
- 第13条 子どもにも自由に表現し、情報を発信する権利（自由）
- 第14条 子どもにも自分の考え方や信じることをおとなから否定されたり、強制されない権利
- 第15条 子どもにもグループをついたり会議を開いたりする権利（自由）
- 第17条 子どもにも適切な情報へアクセスする権利

国際子ども権利センター（シーライツ）では、子どもの権利を普及する無料のオンライン講座「チャイルドライツ・カフェ」を数ヶ月に1回開催しています。

- 『世界の子ども権利かるた』とともに、2019年出版した『世界中の子どもの権利をまもる30の方法』で子どもの権利を広めていただけると嬉しいです。
- シーライツでは、子どもの権利を実現するためのボランティア、インターンを随時募集中です。興味のある方はご連絡ください。

info@c-rights.org

- 「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」では賛同団体を随時募集中です。 <https://crc-campaignjapan.org/>

ご清聴ありがとうございました。



国際子ども権利センター（シーライツ）の紹介

• ビジョン

「すべての子どもがあらゆる暴力から守られ、子どもの権利、特に参加の権利を実現していく社会」

• 子どもの権利アプローチ⇒子どもが置かれている状況を権利のレンズで見て、権利侵害ととらえ、子どもが主張、おとなが対応する仕組みをつくる。**法律**を知らせることで、被害に遭い自分を責めている女の子は被害を訴えることができる

• ミッション

「子どものエンパワースメント」（子どもに対する暴力から、自分のちからで自分や友達をまもることができるよう、そして子どもが自分の気持ちや意見を自由に表現できるよう応援する）

「おとなのエンパワースメント」（子どもの権利条約の考え方をもとに、子どもの声を聴き、子どもをまもることのできるおとなを増やす）

「社会のエンパワースメント」（子どもの声大切にされ、子どもとおとなが共に学び合い解決をめざす、子どもにやさしい社会をつくる）